

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月24日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4271402010
法人名	有限会社 セルフサポート有明
事業所名	グループホーム 暖
所在地	〒859-1216 長崎県雲仙市瑞穂町古部乙771-8 (電話) 0957-65-8880

評価機関名	特定非営利活動法人ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年3月11日	評価確定日	平成20年4月15日

【情報提供票より】(平成20年1月30日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・ <del>平成</del> 16年 8月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	17人 常勤 12人, 非常勤 5人, 常勤換算 10,2人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋建一部鉄骨 造り 階建ての 階 ~ 階部分
------	------------------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,950 円	その他の経費(月額)	4,500円・実費
敷金	有( 円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	900 円	

### (4) 利用者の概要(1月30日現在)

利用者人数	18名	男性	6名	女性	12名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	5名	要介護4	7名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 87.2歳	最低	72歳	最高	97歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	安藤病院・愛野記念病院
---------	-------------


## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

郊外の閑静で緑豊かな場所に立地しており、居間からは有明海が見渡せる、開放感溢れる環境である。周囲には畑があり、農作物を通して季節感を感じることもできる。直ぐ近くには国道が走っているが、ホームは少し奥まった所にある為、騒音もほとんど気にならない。支援面については、入居者のできること、今までされてきたことを介護計画に盛り込み、これまでの生活により近い生活を送っていただけるように工夫されている。またそれによって残存機能の維持・向上を図られている。また、入居者の思い思いの暮らしが可能となるよう買い物の支援や外出の支援、入浴の支援などきめ細かく対応されている様子が伺え、一人ひとりに寄り添った支援がなされているホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点は地域とのつきあいが挙げられており、それについては全職員で話し合い、具体的には夏祭りを開催することによって地域との交流を図ろうと計画されている。さらにそれをきっかけとして、日常的に地域と交流することも検討されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を、日常の業務を振り返る機会であると捉えられており、全職員が自己評価を基にして、再度日々の支援を確認されている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議では、行事の開催状況や医療機関との連携について(医療連携体制加算含)、実地指導についてなどの議題で討議されている。行事の開催については、家族を始め委員の方々からの意見を参考にされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族とは普段から何でも気軽に言っていたりするような関係作りに努められており、家族が面会に来られた際や、電話連絡される際にさりげなく尋ねられたりしている。意見や要望があった場合には全職員で話し合い、迅速に対応されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の自治会に入られており、清掃活動や行事には積極的に参加されている。また回覧板は入居者の方と一緒に届けるようにされている。今後は更に地域との連携を深めていくために、ホームで夏祭りを開催するなどして交流を図られる予定である。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の介護理念を職員と経営者が話し合い、作成されており、利用者にとってこのグループホームはどのような所なのかがわかりやすく簡潔な表現で示されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は毎朝の申し送り時やミーティングなどで声に出して唱和している。また、常に理念に沿った支援がなされているかどうかを確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に入り、地区の清掃活動や行事への参加やお手伝い等に積極的に参加される等、地域の方々との日常的な交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を行うことで、それを新たな気づきの機会と捉えられ、また外部評価を、マンネリ化しがちな日々のケアを振り返り、更にサービスの質の向上へ向けた取り組みのよい機会であると考えられており、評価結果をもとに話し合い、改善へと繋げている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、行事等の実施状況や医療連携について、及び実地指導の結果等について報告され、各委員の方々から意見を聞かれている。		運営推進会議を更に有効に活用するために、サービスの内容や地域との交流、緊急時の対応についてなど幅広い内容について話し合われる事が望まれる。そうすることによって、より地域に密着したホームになられることに期待する。

グループホーム 暖

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者へホームの運営全般について伝えられ、日常的に意見交換をされており、また地域の実状を踏まえた上で、地域の課題解決のための取組にも協働している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の方が面会に来られた際に報告されている。また遠方にいらっしゃる御家族へは電話連絡をされたり、広報誌を送付されるなどして近況を伝えられている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が気軽に苦情や要望を言えるような関係作りに努めており、直接言いにくいことはホーム内に設置されている意見箱に投函していただけるようお願いされている。申し出があった場合には迅速に対応するようにされている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動は、利用者への影響を考慮し、極力行わないようにされている。やむを得ず異動になる場合でも、いきなり職員が変わることは避け、勤務日数を徐々に少なくするなどの工夫をされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の勤務年数や勤務経験により、必要な研修には参加してもらうようにしている。また、資格取得についても積極的に奨励され、研修・講習に参加しやすいように支援されている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内にグループホームケア研究会があり、当該研究会が主催する勉強会や研修会には積極的に参加され、同業者との交流を通してのサービスの質の向上に取り組まれている。		

グループホーム 暖

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	見学を何度かしていただいたり、空き部屋を活用したショートステイを利用していただくなど、利用者がホームに徐々に馴染まれるように工夫されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	掃除や買い物、調理、洗濯物畳みなど、利用者と一緒に、利用者のペースで楽しんで取り組まれている。調理については若い職員さんが利用者の方から作り方を教わったり、実際に作っていただくこともある。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	ご本人から直接希望を聞かれることは勿論、表情や行動からも把握するようにされている。困難な方については家族を交えて検討したりされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	ご本人やご家族からの希望や意見を踏まえた上で、毎月職員全員が参加されてのカンファレンスを開催され、一人ひとりのニーズに即したケアプランを作成されている。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	介護計画に沿ったケアを実践され、見直しの時期にはこれまでの状況を把握・検討された上で新たな介護計画を作成されている。また、途中変化があった場合にはご家族も含めて検討され、見直しをされている。		介護計画に基づいた経過記録について、個別の目標・課題に即した記録の仕方を更に工夫されると、利用者の方々の状況がより詳細に把握でき、次回の介護計画がより良いものになると思われるので、検討する事に期待したい。

グループホーム 暖

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診の付き添い支援や帰省時の送迎、またはご家族の面会時の送迎など、利用者の方々及びご家族の方々の要望には柔軟に対応されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院はご本人のかかりつけ医の医療機関を受診出来るようにされており、必要な方には通院の支援もなされている。点滴が毎日必要になり、通院が困難な方へは主治医と連携を図り、ホームで点滴を行うこともされている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の対応については、ホームとしての指針を文書化されており、それに基づいてご家族、主治医、看護師を交えて話し合っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳に配慮した対応や言葉かけがなされるよう管理者はミーティングなどの機会を利用し職員に話している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な流れはあるが、それよりもその時々希望や要望、あるいは体調面も考慮しながら柔軟に対応されている。		

グループホーム 暖

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備の際は、切り込みや配膳、皿洗いや皿拭きなど出来るだけ利用者の方と一緒にされている。献立も利用者の好みを把握して立てている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望される方は毎日入浴できるようにされている。時間帯も日中であればいつでも入浴できるよう準備されている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴を把握し、楽しく生きがいを持って生活できるように、包丁砥ぎや裁縫、花壇作り、饅頭作りの支援、または囲碁の用意などをされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くのスーパーへは日常的に出かけられており、天気や気候の良い日には気分転換にドライブに出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の自由な暮らしを支援する意義を十分に理解されており、そのため日中は鍵をかけられていない。外に出られそうな方については、さりげなく声を掛け、対応している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員は消防学校の研修に積極的に参加され、非常時の対応の技能を修得されている。また定期的に避難訓練を実施され、災害時には消防団や自治会へ協力をお願いされている。		

グループホーム 暖

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食後チェックし、水分摂取量もチェック表にて職員全員が把握できるようにされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や廊下などの共用スペースは広くゆったりしており、室内には季節感のある装飾がなされるなどの工夫が見受けられた。またリビングや掘り炬燵のある畳の間から望む有明海が美しく、入居者のみならずご家族にも喜ばれている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使い慣れた品々や思い出の品々、家族の写真などが持ち込まれ、安心できる場所になっている。		